

**CASBEE神戸ver.3**  
 (仮称)連絡ロビー・エネルギー施設他工事

■使用評価マニュアル CASBEE神戸ver.3

欄に数値またはコメントを記入 ■評価ソフト:

CASBEE神戸ver.3/CASBEE-BD

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
<b>Q 建築物の環境品質</b>										<b>3.6</b>
<b>Q1 室内環境</b>							<b>0.40</b>			<b>3.3</b>
<b>1 音環境</b>						<b>3.2</b>	0.15	-	-	<b>3.2</b>
1.1 室内騒音レベル						<b>3.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	-	
1.2 遮音						<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能						3.0	0.60	3.0	-	
2 界壁遮音性能						3.0	0.40	3.0	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						3.0	-	3.0	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						3.0	-	3.0	-	
1.3 吸音		床にタイルカーペット、天井に岩綿吸音板を使用				<b>4.0</b>	0.20	<b>3.0</b>	-	
<b>2 温熱環境</b>						<b>3.0</b>	0.35	-	-	<b>3.0</b>
2.1 室温制御						<b>3.0</b>	0.50	-	-	
1 室温						3.0	0.38	3.0	-	
2 外皮性能						3.0	0.25	3.0	-	
3 ゾーン別制御性						3.0	0.38	-	-	
2.2 湿度制御						<b>3.0</b>	0.20	<b>3.0</b>	-	
2.3 空調方式						3.0	0.30	3.0	-	
<b>3 光・視環境</b>						<b>2.9</b>	0.25	-	-	<b>2.9</b>
3.1 昼光利用						<b>2.2</b>	0.30	-	-	
1 昼光率						1.0	0.60	3.0	-	
2 方位別開口						-	-	3.0	-	
3 昼光利用設備		共用部にトップライトを設置し、自然採光を確保、照明負荷を低減				4.0	0.40	3.0	-	
3.2 グレア対策						<b>3.0</b>	0.30	-	-	
1 昼光制御						3.0	1.00	3.0	-	
3.3 照度		防災センター、守衛室750Lx				<b>4.0</b>	0.15	<b>3.0</b>	-	
3.4 照明制御						<b>3.0</b>	0.25	<b>3.0</b>	-	
<b>4 空気質環境</b>						<b>4.3</b>	0.25	-	-	<b>4.3</b>
4.1 発生源対策						<b>5.0</b>	0.50	-	-	
1 化学汚染物質		F☆☆☆☆をほぼ全面的に採用				5.0	1.00	3.0	-	
4.2 換気						<b>3.3</b>	0.30	-	-	
1 換気量		30m <sup>3</sup> /(h・人)を確保				4.0	0.33	3.0	-	
2 自然換気性能						3.0	0.33	3.0	-	
3 取り入れ外気への配慮						3.0	0.33	3.0	-	
4.3 運用管理						<b>4.0</b>	0.20	-	-	
1 CO <sub>2</sub> の監視						3.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御		全館禁煙				5.0	0.50	-	-	
<b>Q2 サービス性能</b>						-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.7</b>
<b>1 機能性</b>						<b>3.3</b>	0.40	-	-	<b>3.3</b>
1.1 機能性・使いやすさ						<b>3.6</b>	0.40	-	-	
1 広さ・収納性						3.0	0.33	3.0	-	
2 高度情報通信設備対応		防災センターは、50VA /m <sup>2</sup> 以上の電源を確保				5.0	0.33	3.0	-	
3 バリアフリー計画						3.0	0.33	-	-	
1.2 心理性・快適性						<b>2.3</b>	0.30	-	-	
1 広さ感・景観						1.0	0.33	3.0	-	
2 リフレッシュスペース						2.0	0.33	-	-	
3 内装計画		コンセプトに基づく内装計画とパースによる検証を実施				4.0	0.33	-	-	
1.3 維持管理						<b>4.0</b>	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		メンテナンスデッキを設置、維持管理に配慮				5.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		屋上に設備架台を設け、メンテナンスに配慮				3.0	0.50	-	-	
<b>2 耐用性・信頼性</b>						<b>4.7</b>	0.30	-	-	<b>4.7</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振						<b>5.0</b>	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		免震構造を採用しており、告示レベルにおいて部材を損傷させない				5.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能		免震構造を採用しており、建物全体の加速度を低減				5.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数						<b>4.2</b>	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数						3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		耐用年数一覧表より耐用年数30年以上の材を採用				5.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		耐用年数一覧表より耐用年数20年以上の材を採用				5.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		シャワー室系統の100%にSUSダクトを採用				5.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		汚水・通気・雑用水管の横引き管にVP系を採用				5.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔						3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性						<b>5.0</b>	0.20	-	-	
1 空調・換気設備		ガス・電気熱源のベストミックス、系統分け、耐震クラスS				5.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備		エコマーク商品、系統分け、受水槽2基、緊急汚水槽、井水利用				5.0	0.20	-	-	
3 電気設備		非常電源設置、受電設備2重化、浸水リスク無し				5.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法		耐震クラスSとして設計用水平震度を設定				5.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備		通信手段の多様化、浸水リスク無し、TV単独受信可能				5.0	0.20	-	-	

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>3.3</b>	0.30	-	-	<b>3.3</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>			<b>3.4</b>	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	階高3.9m以上確保	5.0	0.60	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ		1.0	0.40	3.0	-	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>			<b>3.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	-	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>3.6</b>	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性	搬入ルート確保、更新スペース確保、機能維持しながらの更新・修繕	5.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保	バックアップスペース確保	4.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.9</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-	<b>3.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>		税関線沿道景観計画区域の景観計画に則して景観に配慮	<b>5.0</b>	0.40	-	-	<b>5.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>3.5</b>	0.30	-	-	<b>3.5</b>
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	ピロティにより豊かな中間領域を形成。軒天に木材を使用	<b>4.0</b>	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	<b>3.9</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	<b>0.40</b>	-	-	<b>4.2</b>
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>		高断熱化、Low-Eガラスの採用	<b>4.4</b>	0.20	-	-	<b>4.4</b>
<b>2 自然エネルギー利用</b>			<b>3.0</b>	0.10	-	-	<b>3.0</b>
<b>3 設備システムの高効率化</b>		[BEI][BEIm] = 0.59	<b>5.0</b>	0.50	-	-	<b>5.0</b>
<b>4 効率的運用</b>			<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
集合住宅以外の評価			<b>3.0</b>	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	-	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>4.1</b>
<b>1 水資源保護</b>			<b>3.8</b>	0.20	-	-	<b>3.8</b>
<b>1.1 節水</b>		自動水栓、節水型便器、擬音装置	<b>4.0</b>	0.40	-	-	
<b>1.2 雨水利用・雑排水等の利用</b>			<b>3.7</b>	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無	雨水を灌水に利用	4.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>4.2</b>	0.60	-	-	<b>4.2</b>
<b>2.1 材料使用量の削減</b>		プレストレスコンクリートの採用	3.0	0.10	-	-	
<b>2.2 既存建築躯体等の継続使用</b>			3.0	0.20	-	-	
<b>2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用</b>		杭に高炉セメントを使用	5.0	0.20	-	-	
<b>2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用</b>		ビニル床材、排水硬質ポリ塩化ビニル管	4.0	0.20	-	-	
<b>2.5 持続可能な森林から産出された木材</b>		持続可能な森林から算出された木材を使用	5.0	0.10	-	-	
<b>2.6 部材の再利用可能性向上への取組み</b>		LGS+仕上、OAフロアを採用し容易に分別可能な計画	5.0	0.20	-	-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>4.3</b>	0.20	-	-	<b>4.3</b>
<b>3.1 有害物質を含まない材料の使用</b>		化学物質排出把握管理促進法の対象物質を含まない材料を選定	<b>5.0</b>	0.30	-	-	
<b>3.2 フロン・ハロンの回避</b>			<b>4.0</b>	0.70	-	-	
1	消火剤	不活性ガス消火設備として窒素を採用	4.0	0.33	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	ODP=0の断熱材を採用	5.0	0.33	-	-	
3	冷媒		3.0	0.33	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.3</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>		高効率熱源、LED照明、各種省エネ手法	<b>4.0</b>	0.33	-	-	<b>4.0</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>			<b>2.8</b>	0.33	-	-	<b>2.8</b>
<b>2.1 大気汚染防止</b>			<b>3.0</b>	0.25	-	-	
<b>2.2 温熱環境悪化の改善</b>			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>2.3 地域インフラへの負荷抑制</b>			<b>2.5</b>	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制		2.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.25	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>3.2</b>	0.33	-	-	<b>3.2</b>
<b>3.1 騒音・振動・悪臭の防止</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	0.33	-	-	
2	振動		3.0	0.33	-	-	
3	悪臭		3.0	0.33	-	-	
<b>3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		1.0	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
<b>3.3 光害の抑制</b>			<b>4.4</b>	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	屋外照明光害チェックリスト過半クリア、広告物照明なし	5.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	